

# 熊谷市観光協会の民営化(法人化)について、 検討の現状をご説明します(第1回中間報告)。

熊谷市観光協会会員 各位

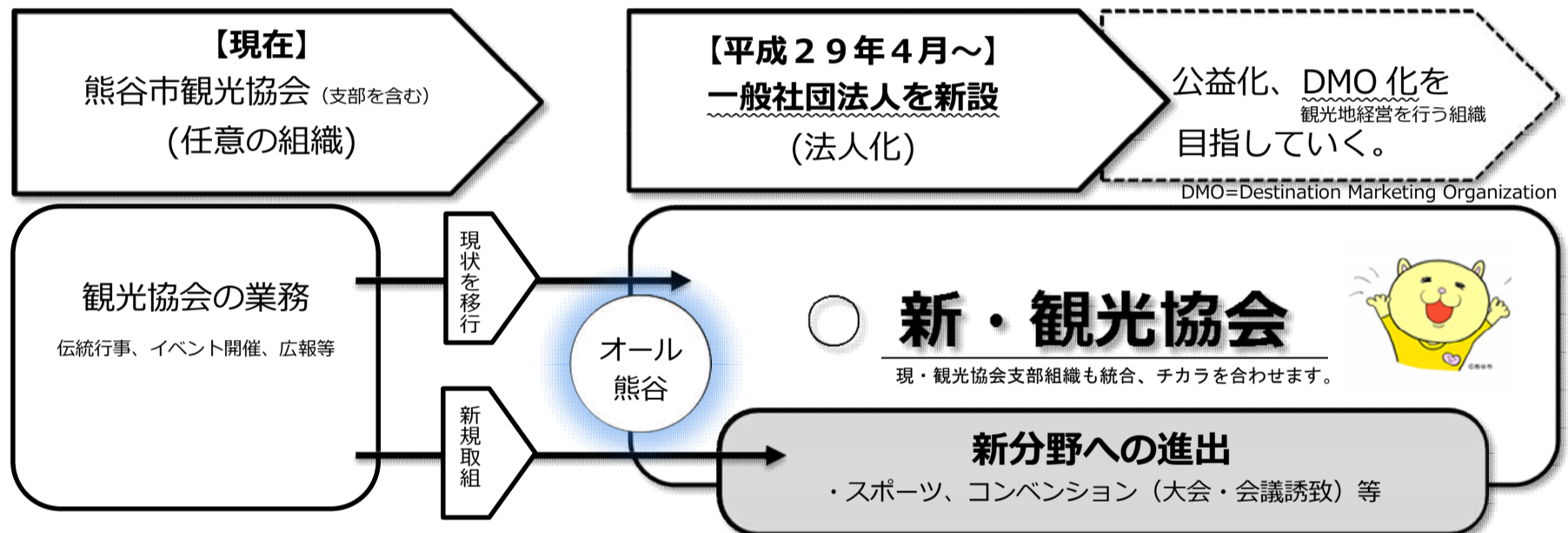
さくら祭、うちわ祭、花火大会・・・熊谷市観光協会は、会員皆様の御理解・御協力のもと、「まつりのまち 熊谷」の伝統行事を着実に運営しております。

人口減少社会となり、地域の活力低下が危惧されることを背景に、「地方創生」の議論が各地でなされています。また、2019年、熊谷は、ラグビーワールドカップの開催都市になります。この機を捉え、我が熊谷を「住んでよし、訪れてよし」の街になるよう、現在、観光協会の民営化(法人化)の議論を進めております。円滑で、よりよい「変化」となるよう、会員皆様に「検討の現状」を御報告し、御意見をお寄せいただきたいと思いますと考えております。

※ 取扱注意。検討事項であり、決定事項ではありません。

## (1) 現在の検討状況は

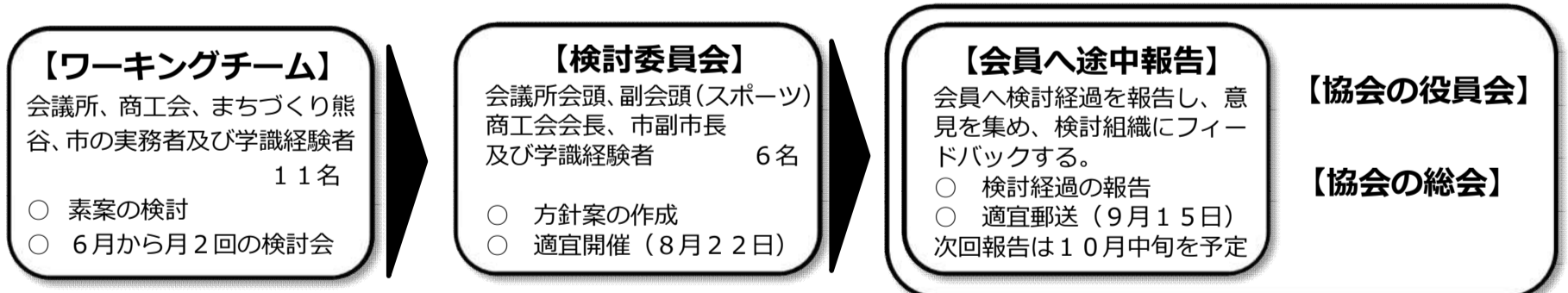
一般社団法人の持つ信用力や事業移行時に市職員の派遣が期待できる点等を評価・検討し、一般社団法人が最適と考えます。全国の主な観光協会111組織中、法人の形態は大多数が一般社団法人です(H23、日本観光協会報告書)。



## (2) 検討の土台は

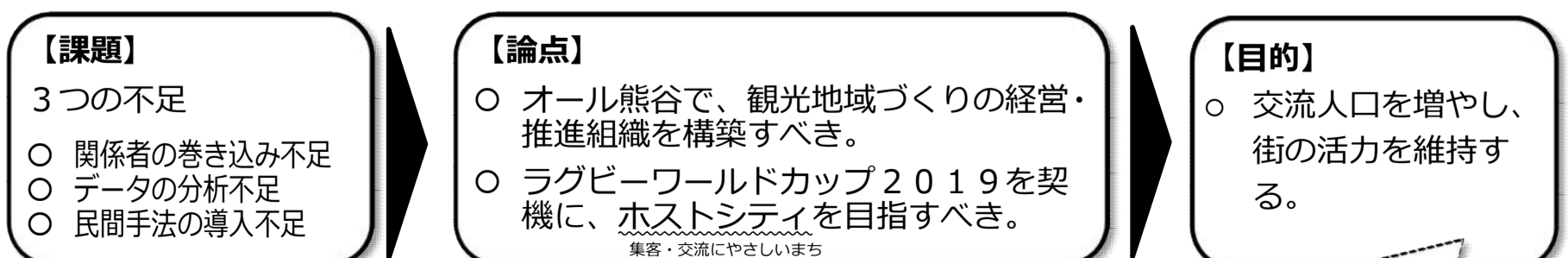
### ○ 民営化検討の組織、工程

実務担当のワーキングチームで素案を検討し、検討委員会で方針案を作成、観光協会の会員皆様に経過報告を行い、役員会、総会を経て、合意形成を図ります(10月に骨子決定の予定)。



### ○ なぜ、協会を民営化(法人化)するのか。

観光は「行こうよ(発地)」型から「おいでよ(着地)」型へと変化し、「観光・交流の活性化」に向けた地域の経営力が重要。観光とまちづくりを一体的に推進するため、民営化・法人化が必要です。



熊谷市の観光入込客は年間350万人(H27)。換算すると定住者4万人分の消費額です。  
(観光庁資料:日帰客の消費額は1.5万円/人・回、定住者は12.1万円/年)。